

**令和2年度 第3回あさお福祉計画及び
地域包括ケアシステム推進会議 議事録**

【会議の概要】

開催日時	令和2年9月23日（水）13時00分から14時30分まで
開催場所	麻生区役所4階 第1会議室
出席者氏名	<p>(1) 委員 吉松委員長、森副委員長、村井委員、今村委員、植田委員、伴委員、原委員、吉垣委員、大川委員、河村委員、依田委員、日暮委員 ※高橋委員欠席</p> <p>(2) 事務局 高階事務局長、大塚地域みまもり支援センター副所長、端坂地域支援課長、石原児童家庭課長、大和田高齢・障害課長、今井保護課係長、田中衛生課長、寺嶋保育所等・地域連携担当課長、高石危機管理担当課長、沖本企画課長、野口生涯学習支援課長、森田地域ケア推進課長、白勢地域ケア推進課係長、高橋地域ケア推進課主任、上原地域ケア推進課担当</p>
議事	<p>[審議事項]</p> <p>(1) 第6期麻生区地域福祉計画の策定について ア 第6期麻生区地域福祉計画 骨子について（資料1） イ 第6期麻生区地域福祉計画（案）について（資料2） ウ 今後の地域福祉計画策定スケジュールについて（資料3）</p> <p>[報告事項]</p> <p>(2) 地域包括ケアシステム推進に向けた取組について 麻生区におけるコミュニティ施策について（資料4）</p> <p>(3) その他 公募委員の募集について</p>
配付資料	<p>委員名簿</p> <p>座席表</p> <p>資料1 第6期麻生区地域福祉計画 骨子</p> <p>資料2 あさお福祉計画（案）第6期麻生区地域福祉計画</p> <p>資料3 今後の地域福祉計画策定スケジュールについて</p> <p>資料4 本市のコミュニティ施策について 第6期麻生区地域福祉計画 事業体系一覧 （参考）日暮委員作成「地域包括ケア圏域別 総人口及び年齢3区分別人口」</p>
傍聴人の数	1名
公開・非公開	公開

【議事要旨】

発言者	発言要旨
事務局 (森田課長)	次第1 開会 司会挨拶
高階所長	<p>次第1 事務局長挨拶</p> <p>皆様、こんにちは。あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議の事務局長を務めさせていただいております、麻生区地域みまもり支援センターの高階でございます。</p> <p>本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。前回8月の会議におきましては地域福祉計画の骨子について、皆様方から多くの意見をいただいております。その後庁内においても検討を重ねまして、あさお福祉計画案ということでまとめさせていただきました。本日はこちらにつきまして、皆様にご確認いただきたいと思います。</p> <p>また本市において、地域包括ケアシステムと連動して相互補完的に取組を進めておりますコミュニティ施策につきましてもご説明させていただく予定になっております。皆様から多くの意見をいただきたいと思います。</p> <p>なお、本日も新型コロナウイルス感染症の対策を、十分取らせていただきながら会議を進めてきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
事務局 (森田課長)	<p>次第1 事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ○配布資料説明 ○事務連絡 <p>※会議の録音、会議録の作成と公開、傍聴者数、出欠について</p>
吉松委員長	<p>委員長挨拶</p> <p>委員の皆様こんにちは。本会議の委員長ということで議事を進行させていただきます。吉松でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は今年度3回目の会議となりますが、これまで皆様から活発なご意見をいただきながら策定をすすめてまいりました「第6期麻生区地域福祉計画」が案としてまとまりましたので、ご確認をいただきます。</p> <p>今後のスケジュールを考えますとこの推進会議で計画の内容について検討できるのは今回が最後となるかと思っておりますので、皆様から活発なご意見をいただきたいと思います。</p> <p>本会議が円滑に進行するよう努めてまいりたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局 (森田課長)	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それではさっそく本日の議事に移ります。では、ここからの進行につきましては、吉松委員長にお任せしたいと存じます。吉松委員長どうぞよろしくお願いいたします。</p>
吉松委員長	<p>それでは、次第に従って議事を進めてまいりたいと思っております。議事の1について、事務局から説明をお願いします。</p>

<p>事務局 (森田課長)</p>	<p>議事 (1) 第6期麻生区地域福祉計画の策定について ア 第6期麻生区地域福祉計画 骨子について(資料1) ※資料1に基づき説明</p>
<p>吉松委員長</p>	<p>ありがとうございました。どなたか、ただ今の説明にご意見、ご質問がございますでしょうか。特にございませんか。</p>
<p>村井委員</p>	<p>では、私の方から一つ。基本目標1の中にソーシャルデザインセンターというのが登場してまいりましたが、まだ皆さんの中に定着しきっていない部分があるかと思うので、ソーシャルデザインセンターとは何かというところがこれからの委員の中で広く周知できるようになったらいいと思いました。</p> <p>また、基本施策1、2、3と具体的な取組名の中にソーシャルデザインセンターの創出に向けたロードマップやシステム像が明確にイメージできるような工夫、どう連動性を持った取組になるのかという紐づけについて、今後また検討していただければと思います。</p> <p>ソーシャルデザインセンターという形になるには基本施策1と2のどのあたりが重要な戦略の展開としての各論なのか、といったところだけ委員の中で共通認識ができたらいいいと思ひ、事務局で補足をしていただければ大変ありがたいと思ひました。以上です。</p>
<p>吉松委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>事務局 (森田課長)</p>	<p>はい、ありがとうございました。「3年後を見据えてめざす麻生区の姿」の中にソーシャルデザインセンターや「まちのひろば」の創出に向けた取組を書かせていただいておりますが、こちらについて、委員の皆さんも具体的には何を指している、どういうことを進めていくのか、まだ情報として入っていない方もいらっしゃるかもしれません。本日につきましては、議事2の「地域包括ケアシステム推進に向けた取組について」の中で、コミュニティ施策を進めている企画課の沖本課長から「麻生区におけるコミュニティ施策について」ということで、資料をもちまして、まずご説明をさせていただきたいと考えております。</p> <p>区民の皆様へも当然説明が必要になるところでございますが、今、区では希望のシナリオプロジェクトというものを進めており、その成果や経過を今後区民の皆様にも情報発信することによって、こちらの考え方をもうちょっと浸透させるよう普及啓発に取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>事業の紐づけについては担当係長から一言説明させていただきます。</p>
<p>事務局 (白勢係長)</p>	<p>お配りしている資料のA3の縦の資料があるかと思ひます。具体的な取組名に紐づく事業として、右から2番目の欄にさまざまな事業を掲載しています。こちらをご覧くださいますと具体的な取組名3番「地域資源を活用した地域づくりの推進」の右側に「『希望のシナリオ』実現に向けた取組プロジェクト」というところで紐づけをしております。詳細な内容については先ほどお伝えしたとおり議事2でご説明させていただきますが、紐づけとしてはこういった形式になっておりますので、ご確認をお願いします。</p>

村井委員	ありがとうございます。では、基本施策2の3に強く紐付いているということで、皆さんで共通認識としておけばよろしいですね。ありがとうございます。
吉松委員長	続いて、議事の1のイ「第6期麻生区地域福祉計画（案）について」事務局から説明をお願いします。
事務局 （森田課長）	議事 （1）第6期麻生区地域福祉計画の策定について イ 第6期麻生区地域福祉計画（案）について（資料2） ※資料2に基づき説明
吉松委員長	ありがとうございました。ただ今の説明に関してどなたかご意見ご質問ございますでしょうか。
依田委員	<p>柿生地区社会福祉協議会の依田でございます。福祉計画の案のご説明ありがとうございました。これだけの膨大な情報だと、通して整理するのは本当に難しいことだと思いますし、いろいろな意見がある中でまとめられたということで本当にご苦労を感謝申し上げます。</p> <p>基本のところ、ありがたいなと思って変更点を伺っておりました。一番感謝申し上げますのは、28ページの地域福祉の担い手と役割に、地区社協として位置づけていただけたことで、この地域にとって励みになると思います。この大きな計画が始まる時に自分のところのネットワークが位置づけられているかどうかでやはり気持ちが変わりますので、地区社協として、また団体にも報告をしますが、大変素敵な位置づけをしていただけたと思っております。ありがとうございます。</p> <p>それから地域圏域のページですが、42ページから地域ごとに6つに分かれ、これ自体がとても大事な情報になると思います。計画を見ても、自分のところの地域が取り出されておらず全体のものだと身近に感じられないのですが、こういう形で地域が語られているというのはすごくいい表現だと思います。</p> <p>そこで、実は先ほど説明の中にありましたが、地域のために施設関係の持っている資源力は結構あるので、地域包括ケアを考えるときに、施設をぜひ必要な資源として考えてもらいたいと常々思っておりました。</p> <p>地域包括ケアはどうしても、福祉で言えば在宅のサービスの方を中心にネットワークを取りましようという議論になりますが、実は足元にある地域の施設をどう活用するかというのはとても有効な視点かと思っております。そういう議論ができていなかったと私自身は思っておりましたので、今回計画の中に、できればこの見開きの「地域包括ケア圏域ごとの概要」に、施設を意識できる書き方をしてもらえないかとお願い申し上げます。</p> <p>説明にありましたとおり、さまざまな検討がされ、線引きをどうするかなど難しい議論はいろいろあり、重複を避けたいということも思いましたので、これで表現は結構ですが、地域でこの計画を語り合うときに、できれば、地域の施設も大事な資源だよという形で取り扱いを意識し、漏れずに扱っていただけるとありがたいと思っています。それをここで表明させていただき、具</p>

	体的に案があるわけではないですが、ぜひ抱き合わせにて地域で議論が進むように願っております。そのことを言わせていただきます。
吉松委員長	ありがとうございました。
今村委員	<p>この39ページの図から地区カルテ二次元バーコードを読んで中を確認させていただきました。とても分かりやすく区民としてすごく身近に感じますし、他の地区を見てそのいいところがあり、自分の地域と比較するというのはすごく具体的でよかったですと思います。</p> <p>ただ、自分の住んでいるところには地域包括支援センターがあるので地図上に載っているんですけども、他の地域はそこにはないので、他の地域の方が自分の担当の地域包括支援センターがどこかというのがヒットしないです。それで「麻生区地域包括支援センター」でネット検索してみたのですが、そうすると川崎市のホームページに飛んでいき、そこから施設の中で麻生区を選んでという形になります。区のホームページは麻生区のホームページ上で調べるか川崎市も含めるかということ自分でチェックして検索するようになっていて、初めは麻生区の中で「地域包括支援センター」と入れたんですけど、ヒットしませんでした。</p> <p>麻生区のホームページ下の「暮らしのガイド」から「麻生区地域包括ケアシステム」というところに飛び、「麻生区地区カルテ（町別）」が出てきます。そこに、地域包括支援センターがインフラの形でもなんでも、自分の住んでいる地域の担当をすぐ検索できると便利だと思いました。</p> <p>例えば栗木台は、一丁目と二丁目地域包括の担当が違っていたりします。マップ上の区分と地域包括の区分が違っていることは構わないのですが、先ほど依田さんがおっしゃったように、やはり見る人は自分の地域を見たときにどこが担当してくださるのかと気になると思いました。</p> <p>また、こういう形で始めますということで「麻生区地区カルテ（町別）」に6地区を表示する地図が出てすごくいいなと思ったのですが、これはもちろん最初からみんなの総意で満足できるのは難しいと思うのですが、PDFの形になっていたものを、ゆくゆくはタップすると事業所の設備やどういったサービスがあるかというところに飛ぶなど、そういうことができるとさらに皆さん便利になると思いました。以上です。</p>
吉松委員長	ありがとうございました。
事務局 (森田課長)	<p>ありがとうございました。今貴重なご意見をいただきましたので、簡単に事務局側の考え方を説明させていただきます。</p> <p>まず依田委員からご提案の、地域資源、地域福祉等を中心とした施設についても地域包括ケア圏域の概要ページに何らかの示し方ができないかということで、こちらは事務局内部でも議論させていただきました。</p> <p>方向性として今、地域福祉計画につきまして小地域の圏域という考え方で、川崎市内で44圏域、麻生区については民児協区6地区、それ以外については地区社協区という分類をしております、市内全域をある程度同じ見方で確認できるよう、44圏域の基本データ、統計データ等を並べた形で比</p>

	<p>較検討できる地区カルテを計画とあわせて公表できるよう、今準備をしているところでございます。</p> <p>そこについては当然、定量的な統計データもそうですが、それ以外に地域資源という考え方もございまして、その示し方については、ある程度各区での考え方を反映することもできそうな状況です。施設の示し方についても、今村委員からご指摘いただいて、一覧表として並べてしまうと、それぞれの地域の成り立ちや時期が違いとても複雑で、そこまでは今反映してないのですが、6圏域ごとの地区カルテというものをつくりたいと考えていまして、その中に今のご意見もできるだけ反映させていければと思っています。</p> <p>また麻生区の地区カルテですが、基本的に当初は7区がそれぞれ地域ニーズに応じてつくってきた経緯もあり、他区では地区社協の区域での統計という形にもなっております。麻生区については、できるだけ地域の方々に地域の課題や情報を共有していただきたいということで、28の町別のカルテをつくり、それぞれに統計データと、先ほど依田委員からご意見をいただきました地域資源を、地域福祉だけではない幅広い資源も分かるような形で今年の5月に、ホームページで公表を始めています。そちらも皆さんのご意見をいただきながら、掲載項目をブラッシュアップしたいと考えています。</p> <p>その町別の詳細集計と区別の集計との間に、今回また新たに6圏域での小地域の集計をお示しする形で、準備しておりますので、第4回の会議でお示しできるかどうかというところです。7区職員を含めた検討会議をつくって作業をしておりますので、少しお待ちいただければと思います。以上です。</p>
吉松委員長	<p>ありがとうございました。村井先生、いいですか。</p>
村井委員	<p>2点ございます。1点は、今回明確に26ページに社協さんとの連携体制を強くくっきりと示されております。これから連携を図るに当たっては、この会議を、組織で展開していく重要な会議として位置づけ、できれば社協さんから一言いただきましたかったというのが私の願いです。地区社協がこれだけ頑張っているの、それを支える社協さんが、活動計画のことについて語っていただくとありがたいと思いました。</p> <p>それから2つ目です。39ページの地域福祉マップですが、もう今村委員さんから出ているとおりで、さらに付け加えますと、こういった一覧性のあるツールは、これから麻生区で何かを始めるときの貴重な情報源として、もしくは課題が生じたときに解決するためのヒントとして大変重要な活用をされていくと思います。</p> <p>そんな中で、ホームページに先ほどアクセスしましたが、地区カルテの存在は分かったのですが、その具体的な活用例を、今後増やす必要があると思いました。例えば、新しく地域活動を始めたいと思ったら地区カルテをどう読めばいいのだろうかとか、防災に対して地域で何かを考えたいときに、地区カルテをどう読み取れば上手に運用できるのかなど、今後区民と一緒に上手に使いこなすために、事例集が増えると素晴らしいと思います。また課題を出してしまい申し訳ないですが、ただ、これこそ知識と見識とデータの集大成であります</p>

	<p>から、これを使いこなしていくことが重要です。</p> <p>そしてもう一つあります。ページの中にもどこにもなかったのですが、地区カルテに追記が必要と気付いた際、住民から情報のフィードバックをもらえるよう、地区カルテに掲載すべきだと判断された重要な地域資源、社会資源の情報がありませんでしたら、ここにご連絡くださいという情報提供先を明確にさせていただくと、共に成長させていける地区カルテになると思っております。区民で育てましょうというオーラが出るよう、使い方と育てていく、この両者があつたらいいなと思いましたので、ぜひご検討ください。以上です。</p>
吉松委員長	ありがとうございました。
事務局 (森田課長)	<p>ありがとうございました。お時間もあるので簡潔にご説明させていただきます。</p> <p>1つ目の、社協のこの会議への参加についてです。おっしゃるとおり、代理でも出ていただくことができれば一番よかったです。高橋委員から出席できないというお話があった段階で、こちらの担当が区社協に行き、中身を説明しております。地区社協を追加する点、一覧表の中に区社協との連携として重点的に取り組むものをある程度表記したいということで意思をお話いたしました。それについてはまだ作成段階なので、今回は反映できていませんが、区の考え方に同意をいただいております。今後計画を固める中では、先ほど担当が説明したような形で整理をしていく予定になっております。</p> <p>2つ目の、39ページの地域福祉マップからつながる地区カルテの活用についてですが、村井委員がおっしゃったように、活用方法やこういう活用をするような見え方ができる、地域が分かる、というところは、確かに、そもそも地区カルテは地域の皆さんと地域づくりに向けて話し合うきっかけとしてのコミュニケーションツールです。このツールを使って情報共有、課題共有を図るためのもので、今も職員が地域に出向いてお話をしているところもあるので、そういう意見も含めて反映できるといいと思います。ぜひブラッシュアップの一つとして職員のほうでも対応させていただきたいと思っておりますし、ユーザーとなる区民の方からの情報などの意見も、どこかに載せることで、進化の加速にもつながると思いますので、そちらについても貴重なご意見として受け止めさせていただきたいと思っております。以上でございます。</p>
村井委員	<p>ありがとうございます。言っただけでは失礼だと思っております。実は私、教科書でも「社会資源の活用」という形で12ページにわたって書いているので、そのエッセンスをご提供し、使い方という点に関しては、責任持ってお手伝いをさせていただこうと考えています。よろしく申し上げます。</p>
事務局 (森田課長)	ありがとうございます。よろしくお願いいたします。
吉松委員長	<p>ありがとうございました。活発なご発言ありがとうございます。</p> <p>時間もございますので、次に進みたいと思います。</p> <p>議事の1のウ「今後の地域福祉計画策定スケジュールについて」事務局からお願いします。</p>

事務局 (森田課長)	議事 (1) 第6期麻生区地域福祉計画の策定について ウ 今後の地域福祉計画策定スケジュールについて (資料3) ※資料3に基づき説明
吉松委員長	ありがとうございます。どなたかご意見ご質問ございますか。
依田委員	余分かもしれませんが、案の中の87ページのパブリックコメントの日付と今のご案内とずれているようですので、大丈夫でしょうかという質問です。
事務局 (森田課長)	ありがとうございます。こちらのほう、前回のものがそのまま、まだ据え置きで置いてあるようなので、新しく修正をさせていただきます。 補足ですが、この上から3つ目の11月10日の政策調整会議附議というのは既にご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、市長を座長として副市長、関係局長で構成している、市の最終的な決定機関です。その上の社会福祉審議会地域福祉専門分科会というのは、外部委員の皆様にご審議をいただき、最終的な策定につなげていく機関になっております。パブリックコメントの結果等も含め、議会にも報告をしてご説明をする予定になっておりますので、よろしくお願いたします。以上です。
吉松委員長	ありがとうございました。 続きまして議事の2に進みたいと思います。事務局からお願いします。
事務局 (森田課長)	議事[報告事項] (2) 地域包括ケアシステム推進に向けた取組について 麻生区におけるコミュニティ施策について (資料4)
事務局 (沖本企画課長)	※資料4に基づき説明
吉松委員長	ありがとうございました。ただいまの説明に関してご質問ございますでしょうか。 日暮委員、どうぞ。
日暮委員	この場では、私は恐らく最年長だと思うのですが、今のご説明をいただいたお話の中で心に響いたのは、「まちのひろば」の創出です。これは本当に、年寄りには身近に感じるのではないかと思います。 それと同時に、こういうことに関わることで、皆さんとお話ししたりすることによって寿命が延びるという説明もございましたけど、その2つが何か非常に心に響きました。以上でございます。
依田委員	質問ですが、最初のほうに出ていた「バックキャスト方式」について教えてください。
事務局 (沖本企画課長)	未来を予測しながら、望ましい将来像を描いた上で現在に立ち戻る、課題を確認しながら行動を積み重ねていく手法で、未来がこんなふうだったらいいなという図を描いてから、そのために何が必要かを考えていくやり方です。
依田委員	それは何かまちづくりの方式ですか。
事務局 (沖本企画課長)	特にまちづくりに限ったことではないと思いますが、最近はこの形でやっているものも出てきているようです。

吉松委員長	<p>ありがとうございました。どなたかございませんか。 村井先生、どうぞ。</p>
村井委員	<p>私もバックキャストイングはお聞きしたいと思っていました。一般的なPDCAサイクルとあまり変わらないのかなという気もしますが、印象的なメッセージとして使われているのかなと思いました。</p> <p>そこで一つ目ですが、圏域の設定として、小学校圏域という新しい設定が標準化される予定なのか、それとも実質的にコミュニティを形成するとすれば、自治会、町会がコミュニティとしては最も現実的なものと考えれば、第4層の存在があるのかという気がしています。</p> <p>現実として小学校圏域でやるとしたら、日本全国で今、いわゆる校区福祉という考え方が西日本のほうではかなり引用されていて、校区福祉型というやり方もいいと思うのですが、まだ定着していないコミュニティの圏域のイメージを、新しく、強く施策として訴えていくのか、そうではなくて、ある程度一つの範囲としての概念なのか、そのあたりをまずお聞きしたいと思います。</p>
事務局 (沖本企画課長)	<p>一つの範囲として、です。市民の方にアンケートを取ったときに、自分の身近な圏域というのはどのぐらいですかという問いに対して、やはり小学校区域ぐらいが一番適当だということでした。「まちのひろば」が小学校区域に1個なきやいけない、2個なきやいけない、そういうことではなくて、いろいろなところにたくさんあっていいと思います。ですので、一つの目標として小学校区域ぐらいを考えています。</p>
村井委員	<p>分かりました。それから、ソーシャルデザインセンターですが、区域レベルでの取組例として示されておりますが、コミュニティセンターやボランティアセンターと何が違うのかなといったところです。区に1個だとすると、似たような機能が並列に設置されそうで、機能統合するのか、並列配置されるのか、よく私たちが便利に使ってしまう、連携協働という名のどこまでやるのか分からないバランス関係をつくるのか、そのあたりはどう考えていますか。</p>
事務局 (沖本企画課長)	<p>ソーシャルデザインセンターは、本当に答えが見つかっていない部分がありますが、今いろいろな活動されている方たちがどういうものが必要で、どういうものがあれば、「まちのひろば」的な新しいものを市民の方がつくっていただけるか、参加していただけるかということの後押しできるものがソーシャルデザインセンターであり、今までのように、行政側が、こういうものをつくりました、皆さん利用してください、という形ではなく、市民の方がこういうものがあつたらいいねという同意、考えのもとつくり上げていくというのが大きな違いだと思います。</p>
村井委員	<p>分かりました。余計な話ですけど、横浜市の泉区や幾つかのところで、いわゆる今までの連合自治会、町内会を超えた区づくり経営会議とうものをつくったのですが、今度は船頭が多くなり過ぎて混乱の一途を今たどり、ちょっと気の毒な状態になっています。市民からの創発によるセンター、センターというとなんとなく物流拠点イメージしてしまいやすいので、そのあたりも上手にケアする必要があると思います。</p>

事務局 (沖本企画課長)	そうですね。ソーシャルデザインセンターという名前も、最終的に市では仮と言っていました。仮ソーシャルデザインセンター。そのぐらい、いい名前というのがなかなか見つからずにいます。仮置きはしていますが、麻生区はそういう名前だと皆さんの思いがちょっと違うということであれば、名前を変えることは構わないと思います。
村井委員	承知しました、ありがとうございます。とても必要であることは間違いないと思うので、どうデザインしていくのが本当にこれからのキーですね。
吉松委員長	ありがとうございました。どなたかございますか。よろしいですか。特になければ議事の3「その他」について事務局からお願いいたします。
事務局 (森田課長)	議事[報告事項] (3) その他 公募委員の募集について ※説明(資料なし)
吉松委員長	ありがとうございました。どなたかご質問ございますか。 なければ最後になりますけれども、日暮委員から地域包括ケア圏域別の人口と年齢区分について、表をつくっていただいたので説明をお願いできますか。
日暮委員	お手元のあさお福祉計画(案)の42ページ目、地域包括ケア圏域ごとの概要を見ているうちに、高齢化率というのがありますが、柿生第1地区は34.4%という数字が出ております。これを見て多いなと思い、誠に僭越ですがお手元に配らせていただきましたが、圏域別の数字を一覧表にしてみたらどうかと思いやってみました。 そうしましたら柿生の第1地区は王禅寺だとか虹ヶ丘、白山、その辺の地域の総人口ですが、高齢化率を見ますと34.4%です。ページをめくっていき、柿生第3地区は片平とか栗木、黒川、はるひ野の辺りですが、そこを見ると高齢比率は16.1%ですね。これは第1地区の半分だなと。こんなに違うのかと思い、この会議を通して、何かその違いに応じた、適合した示唆を提案できればどうかと思っておりました。本日森委員に、「虹ヶ丘は44.8%、白山は45.9%よ」と言われさらにびっくりしましたが、そうなりますと、通り一遍のもので律するというわけにはいかない。そういう地域の特徴にあわせた提案ができればいいと正直に思いました。 柿生村というのは古文書にも村の名前が出ており、歴史上由緒ある地域でございます。したがって、歴代の方々が引き継いで暮らしておられることで高齢者が多いのかなと。また、多摩線が開通して、新しい地域で若い方々が住みやすいのが第3地区なのかなと思いました。町の歴史が、こういう高齢化あるいは人口の構成を変えていくのだなと思いつつながらまとめてみたものを、皆さんにお配りすることになり恐縮いたしております。以上でございます。
吉松委員長	ありがとうございました。
村井委員	計画書をしっかりと読んでいただき、そこからこうやってまとめていただき、本当にありがとうございます。 この計画が完了する3年後の推計値、高齢化率はますます上がっていくだろ

	<p>うことから、われわれは委員として、さっきのバックキャスティング方式を使わせていただくと、3年後の推計値をもとにどういう課題が生じるかを想定し、それに向けた施策となっているかどうかの最終検証をしていく必要があると思います。</p> <p>現在とどうずれていくのかという形になるので、34.4%という高齢化率が現在の指標ですから、さらに3年後のこの地域、それぞれの6圏域がどうなるのかという想定に向けて、高齢化率だけを中心にとすると高齢問題の議論になるので、子どもたちが青年期になり、そして生産年齢人口の一部が高齢化し、もう少し細かく言えば後期高齢者のシフトも視野に入れながら、統計上分かることは早めに手を打って、さらに、先ほど出てきたまだ見えていない生活上の課題や強みを活用しながら、今回新しい提案が出てきた「希望のシナリオ」などへ託していきながら、まちづくりを展開していくのが大事だと思います。</p> <p>現状をきちんと把握する大切なデータをいただくことができ、私たちも柿生の名前が付いているのに第1地区と第3地区はこれだけ違う、だから地域特性は大事なのだということを改めて認識することができたことで、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。</p>
<p>吉松委員長</p>	<p>大変貴重なご指摘ありがとうございました。</p> <p>それでは、これをもちまして本日の議事については終了となりますので、進行を事務局にお返しいたします。委員の皆様、スムーズな会の進行にご協力いただき、ありがとうございました。</p>
<p>事務局 (森田課長)</p>	<p>閉会</p> <p>吉松委員長ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の会議はこれで閉会とさせていただきます。皆様お疲れのところありがとうございました。本日はお忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございました。</p> <p>また、第4回会議が年度内にございます。その時には、策定の「案」がとれたものをお示ししますが、先程、スケジュールの中でご説明しました1月18日の区民説明会、パブリックコメントについて皆様も意見を出していただけました。それぞれいただいたご意見については、区だけではなく市の考え方も含めて回答を書きますので、区の計画、市の計画も含めたくさんのご意見をいただき、計画の中身の充実につながればと思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。</p>